

全国中等学校優勝野球大会大阪大会の歴代優勝校名を記した小旗=1934年7月



# 大阪 河内

大阪本社社会部  
 ☎06(6231)0131(代)  
 fax 06(6201)3143  
 mail: o-syakai3@asahi.com

広告のご用は  
 朝日エリア・アド  
 06(6221)2923  
 大阪朝日広告社  
 06(6205)8080  
 折り込みは  
 朝日オリコミ大阪  
 06(6226)1290

購読のお申し込み  
 配達お問い合わせ  
 0120-33-0843  
 (7:00~21:00)

## 第20回大会(1934年)

### 優勝の歴史 記す小旗

ファインダー  
 大阪大会 あの時

全国高校野球選手権大会の前身、「全国中等学校優勝野球大会」は1915(大正4)年に産声を上げた。大阪大会の草創期の優勝校名を記した小旗が、34(昭和9)年の第20回大会の際に掲げられた。大阪、奈良、和歌山の1府2県で代表1校を選んだ第1回大会では、和歌山中(現桐蔭)が優勝。事実上、初の大阪大会となった

第2回大会は市岡中(現市岡)が優勝し、最初の大坂代表になった。第2回大会からの10年間

は2強時代で、小旗にも2校の名前が並ぶ。優勝回数で見ると、市岡中が7回、明星商(現明星)が3回。第3回大会で初優勝した明星商を指導したのは、市岡中コーチの佐伯達夫(後の日本高野連会長)だった。

「市岡野球部八十年史」には、佐伯が知人に語った話として、「大阪に強い学校が多くなることは歓迎しなければならぬ。そうしたことで他校の指導も心がけた」と記されている。

この頃、頭角を現してき

たのが八尾中(現八尾)だ。25(大正14)年の第11

回大会で、24校が4ブロックに分かれて戦う1次リーグを全勝で突破。決勝リーグで市岡中に敗れはしたが、翌26年の選抜大会で初の甲子園出場をかなえた。

31(昭和6)年の第17回大阪大会で初めて頂点をつかむと、翌32年も圧倒的な強さで連覇した。

25年の大会で市岡中の左翼手として八尾中と対戦し、のちに市岡のOB会長を務めた杉江重雄は「八尾高野球部史」への寄稿で、「市岡王国時代が終わりを告げ、群雄割拠の時代へと変わって行った、まさに峠の年」と振り返っている。

その言葉通り、35年は日新商(現日新)、36年は京阪商(現芦間)が初優勝。40、50年代も、天王寺、高津、大津(現泉大津)、都島工などが初優勝を遂げ、優勝校が目まぐるしく入れ替わる激動の時代に突入していく。

@asahi\_osakaban  
 大阪版のツイッター  
 つぶやいています。

敬称略  
 (坂東慎一郎)